

1. 研究主題

生活をよりよくしようとする児童の育成 ～快適な住まい方の学習を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

今回の学習指導要領改訂で小学校家庭科においては、実践的・体験的な活動や問題解決的な学習、言語活動の充実を通して、自分の成長を自覚し家庭生活を大切にする心情をはぐくむとともに、生活を支える基礎的・基本的な能力と実践的な態度を育成することを重視して改善が図られている。家庭科の最終目標は、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることである。

科学技術の発達・情報化・国際化の進展・少子高齢化等により、社会はますます多様化・複雑化している。家族関係も希薄になり、家庭の機能が十分に果たされておらず、教育力も低下している。そのため、基本的な生活習慣が身に付いていない子どもも多くなってきている。

わたしたちは数え切れないほど多くの物に囲まれ、また、いろいろな物を使って生活している。その様々なものを整理・整とんせずにいたとしたらどうなるのだろう。物が溢れ、何がどこにあるか分からずいつも探さなければならなくなる。時間の浪費にもなるし、結局二度買いし無駄遣いにもつながってくる。快適に生活していくためには、整理・整とんすることがいかに大切かが分かる。児童の身の回りを見ても、学習用具・本や雑誌・衣類などたくさん物の物に囲まれている。これらの物を整理・整とんして快適に生活しようという意欲を高め、主体的に実践する児童を育てたいと本主題を設定した。

(2) 児童の実態から

本校の児童は、豊かな自然と多くの家庭が祖父母と同居する家庭環境の中で、のびのびと素直に育ってきている。

5年生の実態調査から「日常生活で身の回りの整理・整とんは必要だと思いますか」という質問に対して、12人中10人の児童が「はい」と答えている。そのわけとして、「気持ちよくなるから」、「すっきりする・探し物がすぐ見つかり便利だから」、「勉強のやる気がでるから」などを挙げている。また、「身の回りが散らかっていると困ることは何ですか」という質問に対して、普段の生活経験から半数以上の児童が「探し物が見つからない」と答えている。その他に、「場所が狭くなる」、「散らかっている物を踏んでけがをしてしまう」、「気分が悪くなる」などを挙げている。この結果から児童は、日常生活での困った体験から整理・整とんの必要性は感じている。しかし、ロッカーや机の中を見ると物がすぐ取り出せるようには整とんされていないことが多く、場所、収納空間のスペースや形態、物の大きさや形、機能性に応じて整理・整とんをする様子はあまり見られない。中には、机の上が散らかっていても不自由さを感じなかったり、整理・整とんすることは難しいと感じたり、めんどうくさいと感じたりしている児童もいる。整理・整とんは単にかたづけるためではなく、次に使うことを目的としているため、大原則は分類と出し入れのしやすさである。自分の身の回り、学校のみんなで使う場所、家庭での実践、低学年に教えるという段階を踏んだ整理・整とんの体験をさせ、繰り返し「気持ちよさ」を体感させることにより、一人一人の実践力を高めていきたい。

(3) 夷隅郡市教育研究会家庭科部会共同研究の歩みから

研究の歩み

第56次 一人一人の食生活の課題に気づき、解決していく家庭科学習

—— 家庭科学習を中核にすえたカリキュラムの工夫 ——

勝浦市立勝浦小学校・豊浜小学校・郁文小学校

第57次 健全で豊かな食生活を実践できる児童の育成

—— 朝食に視点をあてた家庭科学習のとりくみ ——

いすみ市立長者小学校

第58次 食生活に関する意識を高める指導法の工夫

—— 食生活の大切さに気づく学習を通して ——

いすみ市立大原中学校

第59次 食生活に関する意識を高める指導のあり方

—— 地域素材の活用を通して ——

御宿町立御宿小学校

第60次 衣生活の自立を目指した家庭科学習

—— 洗たくを通して課題を追求する学習のとりくみ ——

勝浦市立総野小学校

第61次 育てる側の視点を持った保育学習の指導のあり方

—— 自らの成長を見つめる学習を通して ——

いすみ市立岬中学校

3. 研究の目標

体験的学習や話し合い活動を取り入れることにより、快適な住まい方の工夫を実践しようとする態度を育てる。

4. 研究仮説

- ① 体験的な活動を多く取り入れた指導計画を工夫することにより、実践的な態度を育てることができるであろう。
- ② 話し合い活動を通して学び合うことにより、生活をよりよくしようとする意欲が高まるであろう。

5. 研究内容

(1) 快適な住まい方の学習における指導計画の工夫

(2) 体験的学習や話し合い活動を取り入れた授業実践

実践1 特別教室の整理・整とんをしよう

実践2 整理・整とんの工夫を見つけよう

実践3 学習したことをまとめよう

6. 研究の実践

(1) 指導計画

題材名「かたづけよう 身の回り」 (5時間扱い)

小 題 材	目 標	時配	学 習 内 容
生活している 場所に目をむ けよう	○自分の生活している 場所を見つめ、気持ち よく生活するためには、 身の回りの物を整理・ 整とんする必要がある ことに気づく。	1	自分のロッカーや机の整理・整とんをしよう ・整理・整とんが必要であることを知る。 ・ロッカーを整理・整とんし、気づいたこ とを話し合う。 ・整理・整とんの方法とポイ ントを考え る。
整理・整とん をくふうしよ う	○身の回りの整理・整 とんの 仕方について考 えたり、自 分なりに工 夫したりして整理・整 とんすることができる。	1	特別教室の整理・整とんをしよう ・グループで特別教室の整理 ・整とんをす る。 ・グループごとに、工夫した ところを中心 に発表し合う。 (実践1)
		1	家での整理・整とんの計 画を立て、実践しよう ・身近なものを使い、工夫して整理・整と んする方法を考える。 ・自分の家庭での整理・整とんの実践計画 を立て、実践する。
	○整理・整とんの工夫 に気づき、これからの 生活に生かそうとする。	1	整理・整とんの工夫を見つけよう ・それぞれが家庭で実践してみた整理・整 とんのアイデアを発表する。 ・友だちの発表を聞き、自分の生活で生か したいアイデアを見つける。(実践2)
学習のまとめ しようを	○学習したことを1. 2. 3年生に分かりや すく伝えるために内容 を考える。 ○1～3年生の児童と 一緒に整理・整とんを することができる。 (スッキリ隊)	1	学習したことをまとめよう ・整理・整とんについて学習したことをま とめる。 ・1～3年生に整理・整とんの仕方を教え、 一緒にロッカーや机の中を整理・整とん する。 (実践3) 掲示物作りや練習は、学級活動や朝自 習の時間に行った。

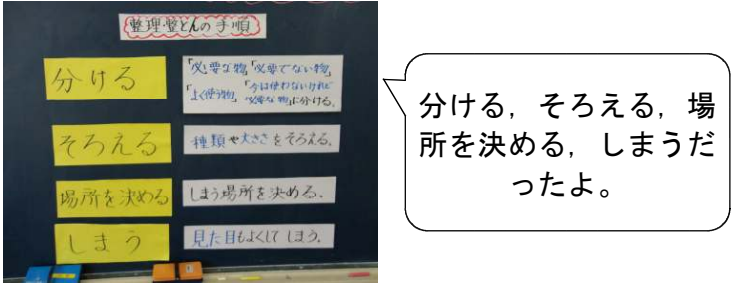



(2) 授業実践

実践1「特別教室の整理・整とんをしよう」

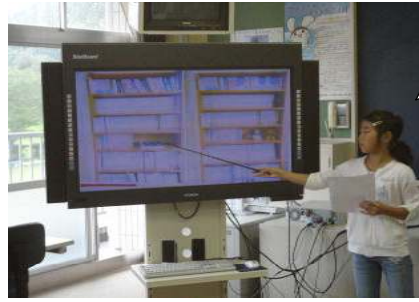
①目 標

・ 図書室，音楽室，家庭科室を各グループで4つのポイントを使って整理・整とんすることができる。

②展 開

学習活動と内容	児 童 の 反 応
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>・ 整理・整とんの方法とポイントを確認する</p>	
<p>2 グループごとに特別教室の整理・整とんをする。</p> <p>図書室グループ 本の整理・整とん</p> <p>音楽室グループ ばちの整理・整とん</p> <p>家庭科室グループ 引き出しの中の整理・整とん</p> <p>・ 問題点，整理・整とんの工夫をメモする。</p>	<p>〈 図書室グループ 〉 ○ 問題点を見つける</p>  <p>○整理・整とんの工夫を相談</p> 
<p>3 整理・整とんをする。</p>	

- 4 整理・整とんの工夫をグループごとに発表する。



逆さになっていた本は直し、違う場所にあった本は元にもどしました。シリーズものは、番号順に並べ替えました。空いた所に人形を並べ、楽しいふんいきにしました。

いろいろなばちがばらばらになっていて取りにくいので、種類別でペアにしました。使うときに素速く取れて便利になったと思います。



引き出しの中がぐちゃぐちゃになっていたので種類別になりました。まず、いる物といない物に分けて、いない物は捨てました。次に、スプーンやフォークなどがばらばらだったので、種類別にそろえました。

- 5 学習のまとめをする。
・ワークシートに今日の感想を書く。



— 特別教室の整理・整とんをした後の感想 —

- ・図書室は、初めは本が逆さになっていたり番号がばらばらになっていたりしてきたなかつたけど、整理・整とんしたら見ているだけで気持ちがよくなった。
- ・初めは分類番号がばらばらであまりいい気持ちではなかったけど、番号をそろえたら気持ちよくなって、しかも取り出しやすくなったのでよかった。(整理・整とんが必要でないと答えた児童)
- ・図書室の本をそろえたら気持ちよくなった。
- ・ばちがペアに置いてあるから素早く取れて便利。
- ・ぐちゃぐちゃだったのを種類別に分けて入れたらスッキリした。
- ・種類別に分けたらスッキリして気持ちがよかった。
- ・家でも整理・整とんをしていい気持ちで一日を過ごしたいので発表で分かったことなどを使って家中をきれいにしていきたいです。(整理・整とんが必要でないと答えた児童)
- ・いろいろな所がきれいになってとっても気持ちよくなりました。ぼくもこれから整理・整とんを心がけたいと思います。

< 考察 >

子どもたちは前時に整理・整とんの方法とポイントをまとめた。また、家族や先生方にもいろいろな工夫を聞いている。そのことを使って特別教室の整理・整とんを試みる時間である。まず、図書室・音楽室・家庭科室それぞれの問題点について話し合い、次にそれに対する工夫点を考えてから実際に活動をした。それぞれの場所に合わせて様々な工夫が見られ、きれいにしようと意欲的にとりこんでいた。そして、その結果を電子黒板を使って発表し合った。お互いの発表を聞くことによりどの班も整理した後の方がスッキリして気持ちがよいことが分かり、全員の子どもたちが整理・整とんの必要性を感じていた。また、自分たちとは違った工夫をしているグループがあることを知り、家でやってみたいという子も数名いた。話し合いをすることにより生活をよりよくしようとする意欲が高まった。



【資料1, 2】

実践2「整理・整とんの工夫を見つけよう」

①目 標

- ・友だちが行った整理・整とんの工夫の中から、自分の生活に生かしたいものを見つけ、これからの生活に生かそうとすることができる。

②展 開

学習活動と内容	児 童 の 反 応
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>2 発表の手順や方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理・整とんをした場所 ・工夫したところ ・もう少し工夫が必要なことなど 	 <p>お皿はお皿でそろえました。そして、平らな皿は平らな皿で重ねました。見た目はきれいだけど、おくに皿が少しあって取りにくいから、今度は少し手前に置くようにしたいです。</p>
<p>3 整理・整とんの工夫について発表し合い、話し合う。</p>	 <p>ぼくは、テレビ台の中のビデオやDVDを整理・整とんしました。まず、ビデオとDVDに分けて置きました。DVDはアニメとドラマに分けて箱に入れました。見た目もきれいになったし、とりやすくなりました。</p>

- 4 学習のまとめをする。
 ・ワークシートに今日の学習の感想を書く。

お茶碗はお茶碗でそろえた方がわかりやすいし、見た目もきれいだと思います。



そうだね。ぼくもそう思うな。

【 学習後の感想 】

整理・整とんの学習を通して思ったこと

整理・整とんをすると気持ちがすっきりして、部屋がきれいになることが分かりました。
 これは種類別に分ける、元あった場所におくなど努力したら気持ちがよくなりました。
 自分の部屋を整理・整とんをしてかいてきにした
 いです。

整理・整とんの学習を通して思ったこと

整理・整とんすると使う人はもちろん、見る人も気持ちよくなって使いやすくなってとてもいいことだと思いました。勉強でやる前より整理・整とんを意識するようになりました。

< 考察 >

本時は各家庭での実践発表である。前時に立てた計画をもとに自分の部屋や机の中、家族で使うテレビ台の中、食器だなの中などを「いつもきれいになっていて使いたい物がすぐ出てくるようにしたい」とか「家族みんながビデオやDVDを取り出しやすくしたい」などそれぞれの思いで整理・整とんしてきた様子を発表した。分かりやすくするために家族の協力でビフォー、アフターの写真を添付してきた児童もいた。発表を聞きながら、友だちの工夫をメモさせたので、授業後の感想の中に「片付けるには工夫がたくさんあるんだとわかった」「人によって整理のやり方がちがったのでいろいろなアイデアを使ってやってみたい」と書いている児童がいたのでこの発表会を通して生活をさらによりよくしようとする意欲が高まっていることが分かる。

【 資料 3, 4 】

実践3 「学習のまとめをしよう」

① 目標

- ・これまで学習してきたことを生かして、1. 2. 3年生と一緒にロッカーや机の中を整理・整とんすることができる。

② 児童の活動の様子

1年生

整理・整とんの4つのポイントを1年生のみんなに、分かるように説明している。



大きさをそろえて、よく使う物は手前に入れた方が取りやすいよ。

2年生



4つのポイントの説明



算数セットの中を整理・整とんしよう。決まった場所にいれようね。

3年生



ぼくは、スッキリ隊3号。3年生のみんなをスッキリさせるためにスッキリ星からやってきたよ。

背表紙をそろえて立てて入れると、わかりやすくてすぐ取り出せるよ。



見てすぐどこに何があるか分かるように重ねないで入れるといいよ。



整理・整とんした後のロッカー

<考察>

本時は、この学習の最後のまとめの実践活動の場として位置づけた。整理・整とんの手順やいろいろな工夫があることを学習してきたが、それを教えるという体験を通して生活をよりよくしようとする意欲をさらに高め、実践的な態度を育てることができるのではないかとこの時間を設定した。どの児童も低学年だということを意識し、手順を分かりやすく説明するために掲示物を作ったり、楽しく整理・整とんができるように「スッキリ隊」になりすまし劇風に進めたりと様々な工夫が見られ、意欲的にとりこんでいた。一緒に整理・整とんしているときにはどの学年からも「まず、いる物といない物に分けてみようね。」とか「大きさをそろえて入れると見た目もきれいだよ。」「1時間目から順番に教科書とノートをそろえて入れておくとすぐ出せてべんりだよ。」などの声が聞こえてきて、学習したことがしっかり生かされていることが分かった。 【資料5, 6】

7 成果と課題

<成果>

- 自分の身の回りから段階を踏んだ整理・整とんの体験をさせたことで、一人一人の自信につながり、。まとめの時間には、主体的に活動する姿が見られ、実践力が高まった。
- 常に整理・整とんの4つのポイントを意識しながら学習を進めていったので、整理・整とんの方法がほとんどの子に身に付いた。
- 体験活動を多く取り入れたことで、何回も「気持ちいい」「スッキリ」と体感することができ、実践化につながった。
- どの子も身の回りの整理・整とんを意識するようになった。
- 話し合い活動の場面を多く設定したことにより、自分とは違う整理・整とんの仕方に気づき、家庭でもやってみたいという意欲が高まった。
- 整理・整とんする前の写真と工夫して整理・整とんした後の様子を電子黒板を使って比較したため、どんな工夫をしたのかがよく分かり、自分でもやってみようという意欲化につながった。

<課題>

- 子どもの家庭環境は様々で、生活様式や家族構成もいろいろである。一人一人に合った指導を考えていく必要がある。
- これからも家庭との連携を図り、子どもたちの具体的な生活経験と関連させながら実感できるような学習にしていきたい。
- 環境教育に結びつけた指導ができるような計画も考えていきたい。